

# 大内経営労務事務所 経営と労務管理の最新レポート

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋1-10-1六川ビル4階

TEL03-3264-6881 FAX03-3264-6882

発行日:2012年6月1日

## 労働時間を6時間にする

労働時間を6時間にする、こんな思い切ったことをするのには「ZOZOTOWN」を運営するスタートトゥデイです。

ZOZOTOWNとは、日本最大級のファッショントン販サイトです。中小ではなく、上場企業で400人弱の従業員がいます。

その規模の会社が労働時間を6時間にしました。始業は9時、終業は15時です。その間休憩はありません。

ワークライフバランスを推進する企業は多いですが、所定労働時間をここまで短くするのにはまず無いでしょう。一般的には、残業時間を無くし、如何に1日8時間で成果を出すかに焦点が当てられています。

これを、所定労働時間を6時間にするとは、かなり思い切ったことだと思います。この制度はこの5月からスタートしたばかりなので、多少の修正を加えながら定着させていくことになるでしょう。実際、定着するかどうかは、業

績次第でしょう。今後どうなるか楽しみです。

労働時間を短くしても問題なしと判断するには、従来の業務にかなりの無駄があるからです。今週の日経ビジネス誌を読むと、一例として会議資料の簡素化が挙げられています。

パワーポイントなどで資料を作成すると、つい凝ったモノをつくりがちです。特に、色々な機能を使える人ほど凝ったモノをつくります。

社外へのプレゼン用であれば良いのでしょうが、社内会議資料ではそこまでやる必要は無い、と考えました。そして、その時間を削減しようというものです。

業務の質を高めようとして行ったことが、かえって余分なことになってしまっていることはよくあるのではないでしょうか。

業務の無駄を省き、集中力をもって取り組めば自ずと労

働時間の短縮につながるはずです。そして余った時間でプライベートなこと、自己啓発、他業界のヒトとの交流等にあてることが出来れば、さらに良いアウトプットが出来るでしょう。

社内の限られた交流関係等のインプットだけではアウトプットにも限界があるでしょう。

短い時間で集中して業務をこなし、成果を挙げる。

この好循環を回せることが重要になります。

参考までに、スタートトゥデイは、家族経営を目指しています。社長の前澤さんは「多くの会社が経済価値向上を目指すGDP（国内総生産）型経営だが、私はブータンが提唱したGNH（国民総幸福）型経営を目指す」と言っています。

また、評価制度も無いそうです。普通でない成長をした企業は普通ではありません。